

[第847回ゼミ報告] 2022年12月9日号

ニュースに“核戦争”の言葉が飛出し、“核の抑止力”とも。わが国では“専守防衛”が“敵地攻撃能力”に衣替え。“抑止力”とは“脅し”“恐喝”ではないか  
1月23日のゼミは、マルクス『資本論』第3巻第7編第49章「生産過程の分析によせて」を松村さんの報告で行いました。いつもの手書きレジュメで報告が行われた。レジュメに書かれた言葉から：価値レベルで企業者利得・地代・労賃を収入三源泉として扱う。生産価格と価値の区別がなくなる、等々。この章から：利潤と地代は剰余価値部分の独自の形態。利潤+地代は実現された全剰余価値である。収入の第三の形態・労賃は可変資本に等しい。労働は労賃・利潤・地代の形態以外に何も価値を創造しない。それでは不変価値部分はどうか、生産物の価値部分に再現されると想定。ただし、消費された不変資本の補填には追加労働が必要。この問題は2部3篇で解決されている。両大部門では不変資本のうち現物として存在する固定部分は捨象される。ここでは総収益と純収益、総所得と純所得は区別される、前者は労賃+利潤+地代、後者は剰余価値である。あと諸困難等々。討論では、3巻では価値は触れられていても、価格レベルの問題提起だ。S.843 で不変価値部分に新たな補填が必要な時に「新たな追加労働が必要」とは疑問だ。総所得と純所得の違いは素材からと価値からの違い。S855で、「帳消し」は大月版の「埋め合わせ」の方が良い。価値補填と使用価値(物・量)補填の視点で書かれている。ここで単純再生産と追加的労働の問題がある。米と粳で言えば一部を粳で残し、第1部門は粳の補填、第2部門は米の補填となる。固定資本の補填・償却問題は使用価値の観点が残っている。遊休貨幣資本から拡大再生産の可能性、ここで償却が問題となる。また、貨幣での交換・買戻し、価値と使用価値の分離の問題がある。保険は未来社会でも必要だ、働けない人への問題。  
会場出席は小野さん・高島さん・川口さん・松村さん・高田、オンライン参加は竹内さん・後藤さん・英国から松本朗さんの8名でした。

\* 12月14日(第2週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 875 3855 2113 パスコード: 376483

\* 芦田本は次回で終わります。次のテキストの推薦本を持参してください。

また、事前にメールで候補本の提案もお願いします。

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

12月14日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
芦田文夫『資本に対抗する民主主義』Ⅲ部 3・4章 報告 高島さん

12月28日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋  
マルクス『資本論』3巻7編50章 競争の外観 報告 高田

1月12日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

(※テキスト未定：推薦本募集中)

その後 2023/1/26, 2/9, 2/23, 3/9, 3/23 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755  
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso